

学校名	新座市立片山小学校
実施日	令和 5年 1月 12日

<記入の仕方> ○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「独自」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、「学びに向かう力の涵養」を目指し、日々の授業で「問いの連続性」を意識し、めあてや見通しをもたせ、振り返りを次時に生かしている。	B	・めあてを明確にして授業に取り組み、本時の授業で何が分かったかまとめ、振り返りをしている。 ・学力向上に向けた取組は、全職員で実施できた。各担当が状況に応じた臨機応変の対応ができた。「授業改善に向けた具体的な取組」を今後も継続して意識して取り組む必要がある。 ・「問いの連続性」については、課題が残る。「総合的な学習の時間」については、学びの力の活用を2年目・3年目と深める動きが必要である。	B	・児童のアンケートに示しているように授業改善に向けた具体的な取組の成果が上がっている。・校長を中心に教職員全体がさらなる課題に向けて一丸となって取り組んでいる姿が見られる。・今後も「学びに向かう力の育成の涵養」を目指してさらなる継続研修を願う。
2	学校は、児童一人一人のためにタブレットPCを活用し、個別最適な学びを進めていることとしている。	A	・学年の実態に合わせてどの学年でも活用している。 ・どんな使い方が効果的か試行錯誤しながら使っている。 ・タブレットの活用は多くの学級できているが、個別最適化という点はまだ研修が必要である。	A	・学年が上がるにつれて児童自らがタブレット機能を理解して積極的に楽しんで活用している。・先生方も新しい取り組みに対し意欲的に取り組んでいることが素晴らしい。・今後も言語活動の一環として読書活動からの学びも取り入れていただきたい。
3	学校は、児童の安全、安心のための環境作りに努めている。	B	・毎月の安全点検を細かく複数の目で行っている。 ・全校が安全を意識した避難訓練ができた。日々、環境も変わるため、環境作りも行いながら、継続性・新たな訓練のあり方を考えて行く必要がある。 ・クローズドに関する取り扱い、インターネットトラブル等が不十分に感じる。出来る範囲で環境を整えてく。	B	・校長のリーダーシップのもと全教職員のチームワークにより努力し安全、安心な学校づくりに取り組んでいる。(マナー化防止の一環として、毎月異なる先生方で点検を行っている)・社会全体として不安な時間等が報道される中、学校は自由に出入りしやすい環境にある。インターネットトラブル等への指導も含めて、今後も地域と連携を深め環境作りに努めていただきたい。

評価項目「組織運営」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	B	・うまくまわっていると思うが、部会によって仕事量の偏りを感じ、主任の負担が多い分掌がある。また、主任頼りなことが多い。B部会の構成を見直す必要がある。 ・部会が定期的にもたれていることで、主任一任の提案ではないが、提案がまとまらないことがあり、事前準備と相談の必要性がある。	B	・昨年の評価と比べて効果が上がっており、適切に機能している。・働き方改革を目指して、常に見直しと反省を行いながら校務分掌を工夫して積極的に取り組んでいる。・通年、改善を図って提案しても、分掌組織間の意思疎通や隙間等をどう埋めていくか課題は残ると思う。試行錯誤しながら年代の異なる先生方で最善の方法を工夫、努力していただきたい。
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、PDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	B	・教職員、地域や保護者の声をよく聞き学校運営していると感じる。 ・提案が時期的に遅いことが多いと感じたので、3学期までの計画をもう一度洗い出し、PDCAサイクルの可視化の必要性がある。	B	・コミュニケーションづくりは挨拶から、と言われるが、保護者のアンケートに示しているように、学校は保護者や地域の方々にあいさつし適切に対応しているが評価が高かった。今後も地域、保護者と密に連携し、課題であるPDCAサイクルの可視化に向けて努力していただきたい。
6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう。危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	・避難訓練、危機管理マニュアルの見直しができている。 ・避難訓練の計画的実施ができ良かった。児童への分かりやすい訓練内容だった。 ・マニュアルを整えることを通じて、全員が共通行動できるようにしていく必要がある。	B	・校内研修の充実に伴って教職員の危機管理意識は高まっており各種のマニュアルの見直しも行われ、よりきめ細かい充実した内容のものである。・避難訓練も具体的な場面を想定しての訓練の積み重ねを実践している。・今後は地域を拠点とした合同訓練の実施が実現できることを望む。(AED扱いも含めて)

評価項目「学力向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で確認した授業の展開を考え、国語・算数を中心に実践している。 ・教職員が個々の力を発揮して全力で指導している。授業展開の理想の形を、研修2年目の来年度に向けて企画委員会や研究推進委員会で検討していく必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は保護者等の意見も聞きながら、日課について検討を行っていききたいとのこと。何がどのように成果があるのか、を分析しながら計画を期待したい。 ・学習や生活のルール等、教職員の努力により浸透してきている。が、学年や学級によっては温度差が見られる。更なる共通理解と共通行動ができるよう望む。
8	学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの活用が図られている。思考を整理し、視覚化がさらにしやすく、また共有できるようになった。更に、深い学びへとつなげていく。 ・思考力等を意識した学習展開は多く見るが、知識・技能面がおおざかりになっていないか見直す心配である。 ・言語表現の力を更に伸ばす必要感のある実態の中で、教職員が努力してる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員は、校内研修で学んだ取り組みを、各教科等で実践し、発展させての授業改善を通して日々実践している。先生方の実践の手応えと課題については普段の授業実践に現れている。 ・今後は独自項目の2にもあるように、タブレットの効果的活用を生かしながら思考力・判断力・表現力の育成に努力をしていただきたい。
9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業において学習指導要領に改めて立ち返る機会が多く、普段の授業から学習指導要領を意識しなければならないと感じる。 ・教材研究や校内研修で、学習指導要領・県編成要領・指導の手引き等を共通理解していくことで更に研修を深めていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校期での発達段階における、各教科等の基礎的、基本的な指導内容を熟知することが重要だと考える。 ・県、市教委から配付された指導の手引き等、個別最適な学び、協動的な学び指導への研修を推進していただきたい。
10	学校は、英語(外国語・外国語活動)の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の授業は、児童がとても楽しみにしている。授業中も真剣に受けているため充実している。 ・高学年を中心にコミュニケーションの場を広げて英語を使っている。 ・総合的な学習の時間と関連させて国際理解教育の推進が図られている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業充実に向け学校としての統一した授業を展開されている。 ・高学年では他校との交流授業を実施している。先生と児童との会話のやりとりやテンポ感ありで、どの児童も楽しく取り組んでいる姿はほほえましい。

評価項目「豊かな心の育成」

No.2

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	B	・場に応じた言葉遣いに課題があると感じる。どんな「指導」をするのがいいのか常に考え指導している。 ・全児童があいさつ運動に関わる活動が少しずつできてよかった。「です・ます」は、クラスでもまだ課題が多い。 ・教師、保護者が自然に行っていくことで広めていきたい。	B	・「心を開いて歩み寄り」という言葉があり、挨拶は人と人の関係を近づける魔法の言葉などと言われる。・児童から率先してのあいさつ運動意識も高まっている様子。保護者、地域、学校が一体となって粘り強くあきらめず声かけをしていくことが大切。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	B	・どうすることでより良く互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。と見えるのか悩みながら、教室掲示等で環境整備を行った。 ・全職員で児童の課題を共有できる環境をつくるようにしてきた。生徒指導部のサポートにより、全体的には落ち着いた学校へと変わってきた。明るく素直な挨拶を意識してきたからだと感じる。	B	・児童・保護者のアンケートから「私は学校で楽しく過ごしている」「子供は楽しく学校に通っている」の項目評価が高い。どうすることがいいのか悩みながら先生方は問題行動を見逃さずに早急に対応策を講じてくれるからであると思う。自分の思いを相手にどう発しているか悩んでいる児童もいるので大変ですが、更なる児童理解に努めていただきたい。
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	B	・教職員がそれぞれの個性を活かして、模範になり工夫して指導にあたった。 ・児童の模範を行う意識をもって指導している。しかし、時折友達同士のような言葉遣いをしてしまったり、右側を歩いていないときがあったりするので、改善点としていく。	B	・上記のアンケート結果からも学校で楽しく過ごしている児童が多いことは教職員や友達を楽しく過ごしている信頼関係が保てると判断したい。校内ですれ違うときの児童や先生方の率先した挨拶にもうかがわれる。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	B	・社会情勢も関係して、外遊びの機会が減っている中、業前の時間に校庭で運動をする機会をつくっている。 ・なわとびオリンピックなどの取り組みがあるが、冬になると休み時間等に運動をしている児童は少ない。又、朝マラソン、鉄棒教室、なわとび教室など実施できていない。世の中の情勢に合わせ、必要のある取り組みを再開していく。	B	・体力向上委員会の企画運営により、運動会が久方ぶりに実施できてよかった。学年の実情に合った演目で児童が楽しく身体を動かしている姿に感動した。・休み時間の過ごし方や体力向上に向けた取り組みを行っているが外で活動している児童はやや少ないように思う。必要ある取り組みの再開を望む。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	B	・社会状況を観ながら、以前行っていた野菜の皮むきなどできる取組を考えていく。 ・家庭科の学習では、栄養士がゲストティーチャーとなって一緒に栄養素の学習を行っている。子どもたちも、自分が食べているご飯について以前よりも興味を持ち考えている様子が見られるようになった。	A	・社会状況の影響で体験活動の制限により児童や保護者への啓発活動がままならなかったことと思う。 ・今後も栄養士との授業づくりは意義のあることなので、年間指導計画に取り入れ、将来につながる食育教育の推進を望む。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	B	・保護者や地域の方の意見を取り入れる姿勢をとると共に、話し合い、適切に対応するように努めている。 ・懇談会への出席率を上げる手立てをとりたい。保護者の要望を聞くだけでなく、学校の教育理念を伝える機会とし、相互理解を図りたい。教員と保護者が気軽に意見交流できる場にしていきたい。	B	・保護者アンケートでの1、14、17での評価がやや低い。社会情勢を鑑みながら、懇談会出席率を上げる手立てを講じているが、思うように参加できていないとのこと。学校だけで考えるのではなく、PTA関係等で話題に出しながら三者一体での連携、結束力が必要と考える。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	・学校のホームページで様々な取組を紹介している。教職員も他学年の取組を知ることができている。 ・ホームページを中心に児童の頑張りや伝わり、児童も楽しみにしており、日々の学習や様々な活動の励みになっている。	A	・学校だよりやホームページ等で、児童の活動の様子や学校の取り組みなど具体的であり、詳細にわたって提供されている。閲覧数も増えて学校の最新情報が得られるのは喜ばしいことである。・報道番組で全国に紹介され地域や保護者、児童にも大いに自信につながっていく。
18	学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。	B	・コロナ禍で難しい現状があるものの、PTAの方々を中心に学校応援団を組織し本当に良く協力をいただいている。 ・PTAの活動にはいつも助けられている。教職員がその思いに感謝の気持ちを伝える機会をもちたい。	A	・学校は学校応援団の組織や活動に対して大変理解してくださっている。社会情勢で難しい現状であるが、今後は昔遊び等の行事も復活して一層の連携、充実を望む。・本校PTAが、学校応援団を中心とした保護者と学校が連携した教育の推進として「埼玉県教育ふれあい賞」を表彰され、すばらしい成果である。